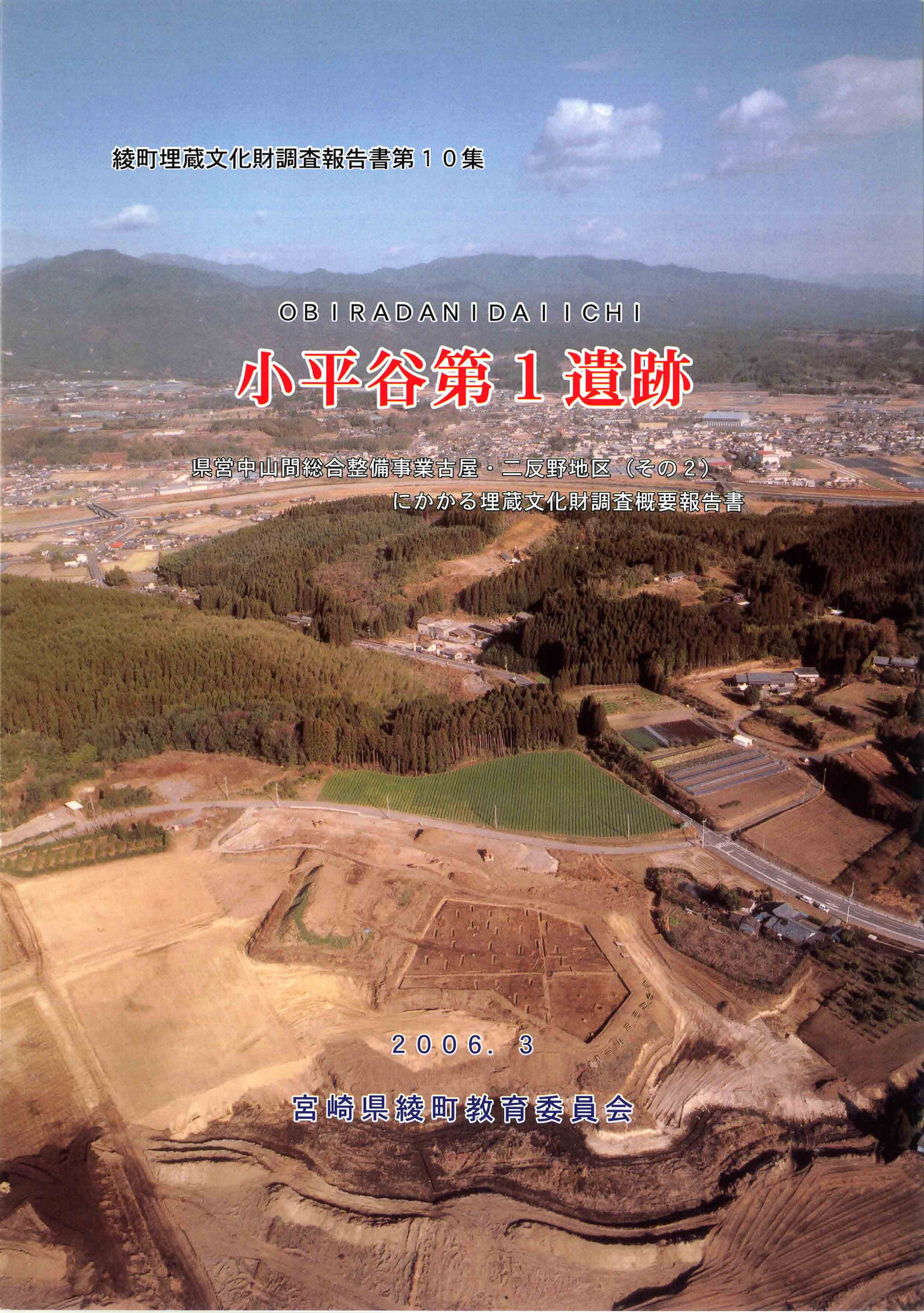


綾町埋蔵文化財調査報告書第１０集

OBIRADANIDAIICHI

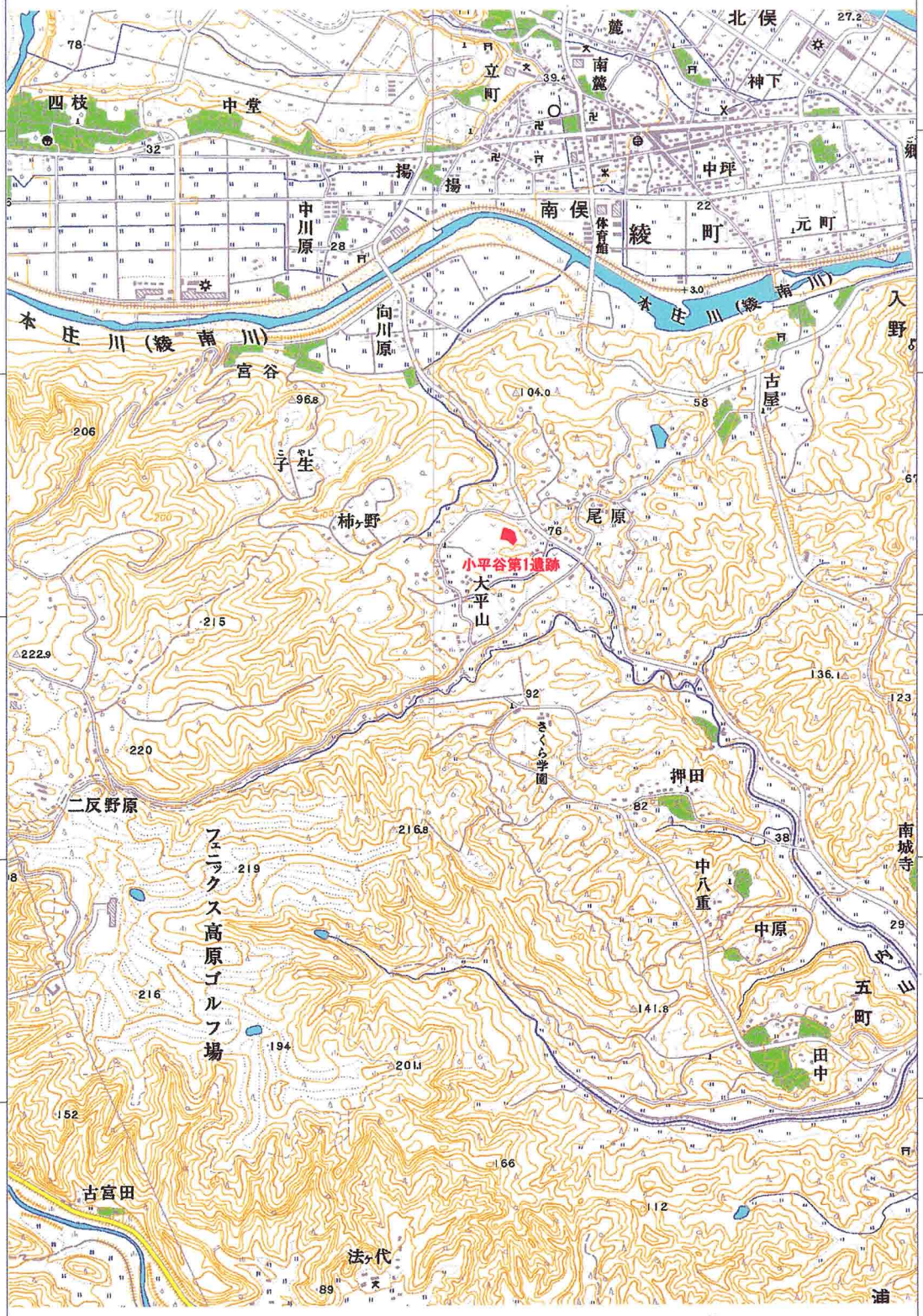
小平谷第１遺跡

県営中山間総合整備事業古屋・二反野地区（その２）
にかかる埋蔵文化財調査概要報告書

２００６．３

宮崎県綾町教育委員会

小平谷第1遺跡位置図



*世界測地系による

１．調査に至る経緯

平成１３年度からおこなわれている、綾町古屋・二反野地区の県営中山間総合整備事業に伴い、平成１７年３月に宮崎県教育庁文化財課が試掘調査をおこなったところ、事業地の一部に埋蔵文化財の所在が確認された。この試掘結果をうけて、県教育庁文化財課・綾町教育委員会・中部農林振興局・綾町役場農林振興課の四者で遺跡の取り扱いについて協議をおこなったところ、事業設計上やむを得ず削平される部分においては発掘調査して記録保存の処置を行うこととなった。

調査は中部農林振興局の委託を受け、平成１７年８月１９日～１２月２２日までの日程にて綾町教育委員会が調査主体となり実施した。

なお、調査面積は２，７９０㎡となった。

２．調査組織

調査主体	宮崎県東諸県郡綾町教育委員会		
調査組織	綾町教育委員会	教育長	玉田　清人
		社会教育課長	松本　淳資
		社会教育係長	藤本　匡史
	調査担当	社会教育係主事	井上　隆広
	調査作業員	(社)綾町シルバー人材センター	
	調査支援業務	有限会社ジパングサーベイ	
		(有)スカイサーベイ九州	

３．遺跡の立地と歴史的環境

綾町は宮崎県のほぼ中央部、大淀川水系の綾南川・北川の合流点に位置し宮崎市との距離約２０㎞に位置するところである。本遺跡は、綾南川南岸標高約８５ｍの台地上に位置している。遺跡周辺には、平成７・８年度の詳細分布調査にて遺跡番号１２２番の大平山第２遺跡、１２３番大平山第３遺跡、１２５番の小平谷第２遺跡などの散布地が発見されており、このほかにも多くの遺跡が点在している可能性がある。

4．調査の概要

本遺跡では、耕作によりアカホヤ層の残存がよくなかったので、まず表土などを重機にて掘削し、その後人力によりアカホヤ直下の黒褐色の層にて遺構検出をおこなった。その結果試掘調査では、見つかっていなかった住居跡３基が検出された。その後、台風による天候不順などが続き、期間内の終了を考慮した上で、比較的多量の遺物が発見された台地上の東先端部分のみ小林軽石層までの全面掘削をおこない、他の部分については小林軽石層までのトレンチ掘りにて遺構確認をおこなった。

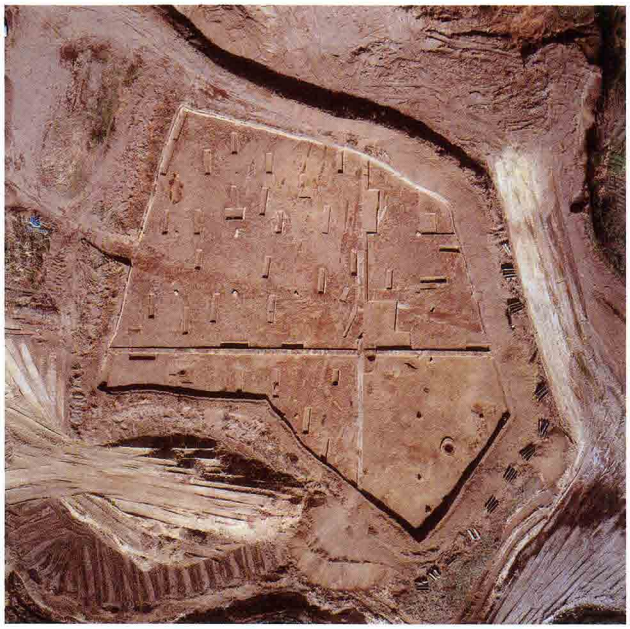
本遺跡の遺構に関しては、縄文時代のものとして集石７基、炉穴１基、土坑１基、古墳時代の遺構としては住居跡が３基検出されている。また、時期不明のものとして４本の逆茂木痕をもった落とし穴が１基検出されている。石器に関しては、黒曜石やチャートなどの石材を使用した石鏃や水晶などが見つかっている。また、古墳時代住居内よりそら豆色をした蛇紋岩製の装飾品が出土している。土器としては、縄文時代早期の押型文が中心で一部に縄文時代草創期の爪形文の土器も出土している。住居内埋土からも古墳時代の土器が多数出土している。

5．基本層序

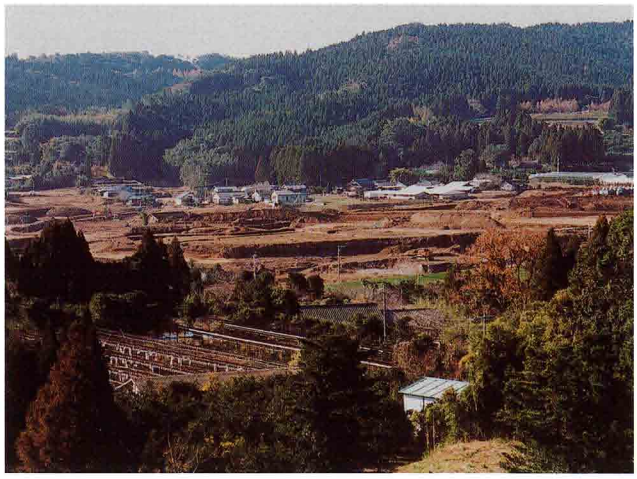
本遺跡の基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ　層　表　　土
Ⅱａ層　褐　　色（Hue7.5YR 4/6）
Ⅱｂ層　明　褐　色（Hue7.5YR 5/8）
Ⅲ　層　黒　褐　色（Hue10YR 2/2）
Ⅳ　層　暗　褐　色（Hue10YR 3/4）
Ⅴ　層　にぶい黄褐色（Hue10YR 4/3）
Ⅵ　層　褐　　色（Hue10YR 4/4）

図版１　　調査地土層断面



図版２　　調査地全景



図版３　　調査地遠景

図版４　　調査地風景（調査前）

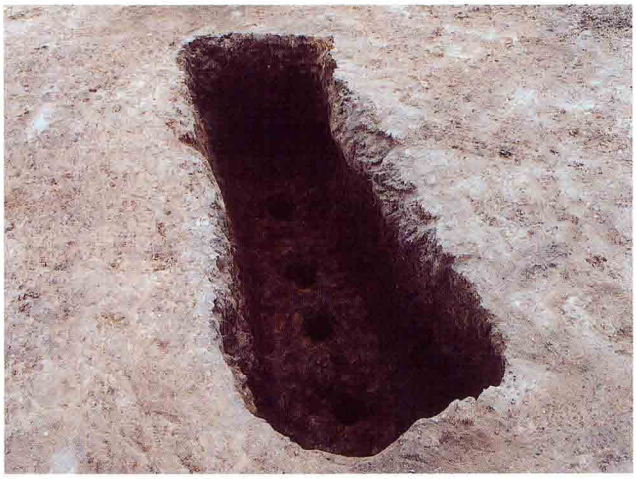
図版５　　表土掘削状況

図版６　　ＳＡ１検出状況

図版７　　ＳＡ２検出状況(完掘)

図版８　　ＳＡ３検出状況(完掘)

図版９　　ＳＲ０１検出状況



図版10　　ＳＣ０２検出状況

図版11　　ＳＳ０７検出状況

図版12　　ＳＳ０２検出状況

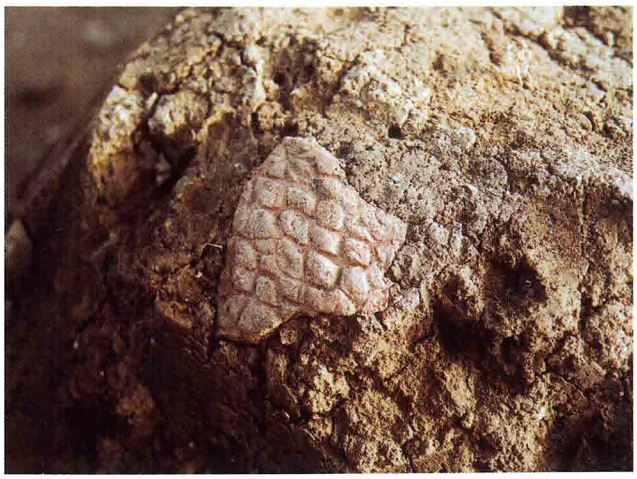
図版13　水晶出土状況

図版14　石器出土状況

図版15　黒曜石製品出土状況

図版16　土器出土状況（その１）

図版17　土器出土状況（その２）



図版18　土器出土状況（その３）

綾町埋蔵文化財調査報告書第１０集
小平谷第１遺跡

県営中山間総合整備事業古屋・二反野地区（その２）
にかかる埋蔵文化財発掘調査概要報告書

２００６年３月

編集・発行　綾町教育委員会
〒８８０－１３０３
宮崎県東諸県郡綾町大字南俣５４６－１
TEL. ０９８５－７７－１１８３
印　　刷　有限会社 垣 原 印 刷
〒８８０－１１０１
宮崎県東諸県郡国富町大字本庄３９８４
TEL. ０９８５－７５－２０１５